

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年11月27日（木）

2 確認箇所

- ・ 1号機原子炉建屋（1／2号機高圧開閉所）（図1）
- ・ 1～4号機建屋周辺（図1）

3 確認項目

- （1） 1号機原子炉建屋大型カバー設置状況
- （2） 1～4号機建屋周辺陸側遮水壁内側のフェーシング工事の状況

4 確認結果の概要

（1） 1号機原子炉建屋大型カバー設置状況

1号機原子炉建屋からの使用済燃料取り出しは、建屋全体を覆う大型カバーの設置後に実施する計画としている。10月12日には、ボックスリング※¹の設置が完了し、また、可動屋根※²の設置についても11月7日に1ブロック目の運搬及び設置が計画どおり実施されたところである。

大型カバーの屋根部は、可動式（以下「可動屋根」という。）であり、可動屋根の設置は、いくつかのブロックに分けて実施される計画となっている。県では、大型カバー設置の進捗状況を定期的に確認していることから、本日も作業が継続している大型カバー設置の状況について確認した。

（前回確認：令和7年10月23日）

- ・ 確認した範囲で、機器の破損や資機材の散逸等は確認されなかった。
- ・ 前回調査時において建屋西側の上部架構の一部は塞がれていなかったが今回確認では建屋西側の上部架構全ての閉塞を確認した。（写真1）
- ・ 可動屋根の2ブロック目が北面に設置され、11月7日に設置した南面の1ブロック目と合わせ計2ブロックの設置が確認された。（写真2）
- ・ また、1号機北西地上階に3ブロック目の可動屋根フレームが運搬されており、設置の準備が進められていた。

※1 ボックスリング：可動屋根や瓦礫撤去用天井クレーンのレール等が設置される台座部分。

※2 可動屋根：通常は動かないように固定される。今後、大型カバー内への瓦礫撤去用天井クレーン及び燃料取扱装置の搬入等の作業は、可動屋根を開閉して実施される。

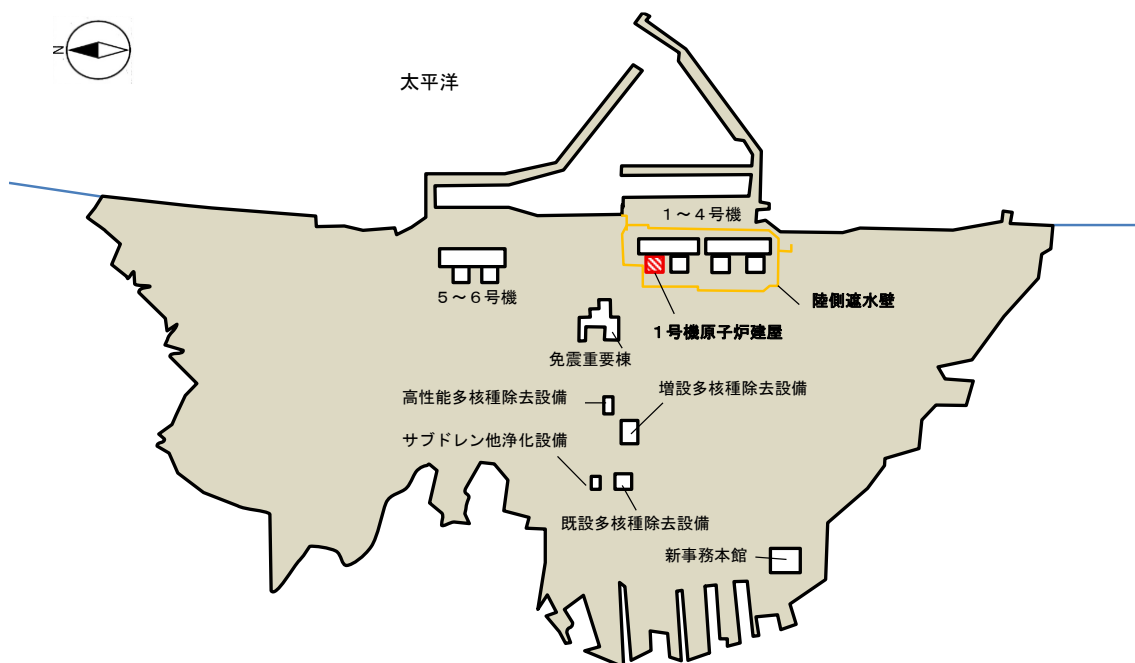
（2） 1～4号機建屋周辺陸側遮水壁内側のフェーシング工事の状況

放射線量の低減及び雨水の地下浸透抑制のために、構内地表面をアスファルト等で覆うフェーシング工事が進められており、1～4号機建屋周辺の陸側遮水壁内側においては、作業を計画しているエリアの敷地面積全体

約6万㎡のうち約55%（令和7年10月末時点）のフェーシング工事が完了している。

今回は、1号機原子炉建屋北東部及び2号機南側におけるフェーシング工事の実施状況を確認した。（前回確認日：令和7年9月17日）

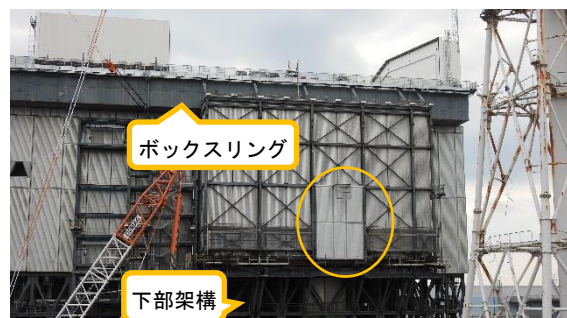
- ・1号機原子炉建屋北東部においては、タービン建屋脇の1号機復水器タンク周辺部分の道路側溝整備及び歩道縁石部分のシーリング工事の完了を確認した。（写真3）
- ・2号機南側におけるフェーシング工事の実施状況については、前回確認時に現場でのフェーシング面を研り、新たな側溝を設置している状況が確認されたが、今回調査では、当該箇所での工事は完了し、新設側溝が設置されていた。（写真4）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1①）1号機大型カバー全景



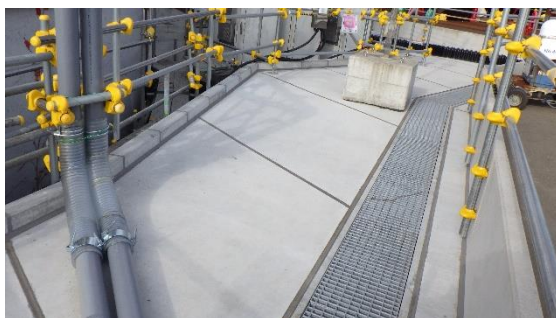
（写真1②）上部架構開放部の
閉塞状況



(写真2①) 可動屋根(2ブロック目)の設置状況



(写真2②) 可動屋根(1ブロック目)の設置状況



(写真3①) 1号機復水器タンク周辺の道路側溝整備状況



(写真3②) 歩道縁石部分のシーリング工事の状況



(写真4①) 2号機南側フェーシング工事の実施状況①



(写真4②) 2号機南側フェーシング工事の実施状況②

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。